

[Yahoo!ジオシティーズサービス終了のお知らせ](#)

[シャンプーを替えるだけ？](#)

[hcs-sastty.com](#)

初回限定1本1,000円OFF♪髪をいたわり染める白髪ケア

Ads by Yahoo! JAPAN



次の夢を追いかけて

ず〜っと夢だったスパルタスロンへ

2007年10月1日 エーゲ海の島へ珍道中 & セレモニー

[前日9月30日はこちら](#)

楽しみにしていたエーゲ海クルージング！昨年クルージングツアーで3島を慌しく回ったジョイナーとY子さんが、一番面白そうな島に定期船で行けることを発見、あたためていた計画だった。コノチャンさん、Tじい、セカイノカナイさん、ミホちゃん、すみこさんも合流。バスで港に向かった。マイスターのグループや、渡辺センセのグループもほぼ同じコース。海が見えないが、港へ行くにはここで下りるように言われ、ガイドブックと照らし合わせて道を探す。大聖堂の前を通過して港に到着、フェリーの切符をゲット、ちょうどすぐ船が出る時間だった。小一時間の船旅。しぶきであまり景色は見えなかった。

着いたのは「エギナ島」ピスタチオが名産の島だ。水はきれい！港町はテーマパークみたい！

遺跡の神殿へ行くバスは出てしまったところだ。するとタクシーがよってきてふっかつけた。断って、神殿へは次のバスにして、それまで街を散策。

下は写真2枚。古くかわいい港町の風景。左の写真、石造りの建物は銀行。右は海岸通りに並ぶタベルナ。外にテーブルが並ぶ、オープンカフェだ。



市場のある裏通りに入った。細い道の両側にいろいろな店。小物屋やお菓子屋、八百屋、魚屋。タベルナもたくさん。まだランチには早いようだが、昔日本にもあった軽三輪が走っていた。ピスタチオの特産袋もゲット。バラバラになって自由に散策していたが、みんな自然と一軒のタベルナに集まってきた。日本人向けガイドブックに良く出てくる人気店だ。炭火でじっくり焼いたタコと、イカのから揚げをつまみに、ビール、ワイン、そしてギリシャの地酒ウゾを飲む。ウゾはブドウの皮で作った焼酎で、松脂の香りが強い。度数も高く、少量で酔ってしまい、安上がりの酒だ。くせがあっておいしいんだかまずいんだかわからない。苦手な人もいると思うが、珍しいから土産にも良いだろう。

下3段は写真6枚。港町の裏通り、市場の風景。



バスの時間になった。他のグループもこのバスだ。渡辺センセたちは、ヌーディスト目当てに終点のビーチへ向かった。約12キロ「走ろうよ」という提案もあったが上り坂。神殿の周りは公園風に良く整備されてきれいだ。神殿もすばらしい！眺めもすばらしい！入り口向かいにある土産屋には古代にちなんだものや、島らしい海や船の関係品がいろいろ。目当てのピスタチオアイスもおいしかった。

別グループには走って帰った人もいたが、私たちはゆっくり見物し、次のバスで港に戻った。船の時間までコノチャンさんたちは海で泳いでくるという。私はもう一度裏通りを散策。昼休み時で、みなさん一度家に帰るのか、すごい勢いでたくさんの原チャリが走り回っていた。休憩に入る店も多くて、先ほどのほうが活気があった。お菓子屋でどんな味かなあと眺めていたらいろいろ試食させてもらえた。でも、どれもやたらと甘くて。

帰りの船からは、点在する島々や、だんだん近づいてくる陸地が良く見えた。来たときと同じバス路線をさがしていたら、バス停でマイスターグループといっしょになった。ここでまたビックリ事

件。「ギリシャ人病」がうつってしまった！いしだつと君が、「A1だけではなく、B1でもグリファダに帰れる」と言うので誰も疑わずB1のバスに乗り込んだ。でもあれあれ？途中で左折、海岸を離れ内陸部に入っていく。まあ、一応賑やかできれいな街が続いており、ぶっそうな所ではない。しかし海に近づく気配がない。心配になり車内がざわついたが、マックは「別の道を通ってグリファダに行くのさ」と落ち着き払っている。そのうち不安を感じたいしだつと君が運転手さんにバスのコースをきいたら、グリファダの近くは通るが街には行かないとのこと。運転手さんに道をきいて次のバス停で下りた。かわいい店の多い街で、散策には良いところだ。が、ここはどこ？グリファダまでどれくらい？街の人にきくと、ずいぶん遠いとわかり、タクシーで帰ることにした。手をあげても止まってくれない。電話して呼ばないとならないそうだ。でもここがどこかわからないから呼びようがない。親切なバイクのにいちゃんが手配してくれた。何度か曲がって旧空港の裏に出てぐると回ってホテル。遠かった。面白い事件だった。

下の3段は写真。エギナ島の神殿、土産屋とピスタチオアイス。



今夜のセレモニーは正装で。なのでみんなコスプレ。ジョイナーはドレス、Y子さんはワンピース、ミホちゃんは着物、リナちゃんは浴衣だ。旅がらすは、完走できるなら正装で臨みたいが、無理とわかっていたので目立つのはやめてスーツ。

入賞者の表彰のあと、完走者は全員が順に呼ばれ、完走賞を受け取る。完走者は全員が勝者だ。いつかきっと。できるのだろうか。

下の2段は写真。セレモニー風景。



10月2日に続く

旅がらすの乱RUN欄 2007年10月に戻る

からっ風の丘からHOME